

「ありがとう……みんな」

さいごの学級通信「もっともっとげんき」から

山崎 徹

たくさんのお返し……ありがとう

はさみや定規などを友達が忘れたら進んで貸してやり、勉強が早く終わった子が進んで遅れている子に教えに行ったり、つらいとき、困ったときには声をかけ合ったり、そして、ときには先生の頭を「いい子、いい子」と撫でてくれたりして……そんな姿が多く見られ、ピリッとした緊張感の中にも温かい雰囲気教室は満たされていました。そのお返しの中で、私もゆつたりと安心して過ごすことができました。

「花さき山」のあやのような女の子、「もちもちの木」の豆太のような男の子、そして、みんなはいざとなったら「八郎」の八郎、「三三」の三三のようでした。

たくさんのお返し……ありがとう

「お返し」と「思いやり」、「友達」のことを考えて取り組んだ「ボレボレ」の劇。運動会の「ビッグウェーブ」や「全員リレー」に燃え、みんなの応援の中で力を出し切り、力を合わせたこと。

二五メートルを目指してひっしになってプールの壁に向かって泳ぎ、みんなで励まし合ったこと。

市野坪の川で歓声を上げながらサワガニやヘビトンボを捕まえたこと。

体育のときだけでなく、みんなで燃えたサッカーやポートボール、バスケットボールの試合。

心を込めて「手紙」を歌いました。「負けないで、泣かないで」の歌詞になると涙が出ました。

毎日がドラマでした。みんなと過ごした時間は、私の宝物です。

たくさんの信頼……ありがとう

「昨日よりは今日、今日よりは明日」と自分が伸びていくことを信じ、努力することのできるみんなでした。

ときには、けんかもしていやな気持ちになったこともあるけど、友達と助け合ったり、支え合ったりすることのできるみんなでした。

ときには、私の譲ることのできない願い、要求も真面目から受け止め、自分と自分たちをみつめ、「一人で、みんなと、さらに」と伸びていこうとしたみんなでした。

これからも、つらいことや悲しいこともあるでしょう。そのときは、「自分の声を信じ、歩けばいいの」です（「手紙」より）。

三月二十四日、最後の学級通信「もつともつとげ

んきNo.127」に「心から言いたい……ありがとう、みんな」というタイトルで書いたものです。それは、私の偽らざる気持ちであり、素直に書くことができました。

そして、「優しくて真つ直ぐな子どもたちです。みんなで励まし合って伸びていくことのできる子どもたちです。そんな子どもたちと過ごせたことに感謝しています」と、保護者とご家族の皆様に素直に伝えることができました。

「今日の自分が、昨日の自分であつたら」と、過ぎ去ったことを悔いることもありすが、それでも、私は、子どもたちと一緒に過ごすことを「楽しい」と思っています。

「○○さん、先生、疲れたから肩もんでくれない」

「だめ、先生はもう私たちの担任じゃないんだから」

「白髪なんて言ったらだめだぞ。ロマンスグレーと言いなさい」

「お母さんがね、先生の髪、ロマンスグレーじゃなくて白髪だつて」

一年生の生活科、「握手大作戦」で、

「先生の名前を教えてください」

「本当はやまぎ先生だけど、みんなはハンサム先生と言っています」

「ハンサム先生、握手してください」

……子ども達とこんなやりとりをしている時間が楽しいのです。そんなやりとりの中で子ども達は、家庭のことや友達のこと、勉強のことなども話します。

一人一人の子どもや、集団としてのクラスの子どもの達に不十分なところはあります。ときには、困ったことや問題も起きます。でも、ことさら「問題」を取り上げたり、子どものことを愚痴ったりすることは慎んでいます。「大声で怒鳴りつける」欠点のある私も、「山崎先生の良いところは、第一にサッカーがうまいことです。……第二に、みんなを笑わせてくれることです。第三に、授業を時間びつたりにやめてくれることです。いっぱい遊べます……」と、子ども達に言われるとうれしいものです。

「私は、四年生になって成長したことがあります。それは、背が伸びたことです。百二十九センチに伸びました。私は、(やったー)と思いました。……」「Rさんの(粘土)作品は、とても楽しそうで、本当にサー

カスをしているように見えます」「となりのNさんの良いところは、私が算数の勉強がわからないときに教えてくれることです」「桃のやさしい味のようによさしいから、Aさんにはこの桃と言いう漢字をおくります」「私の良いところは、自分で言うのもなんですが、ちよつと絵がうまいことです。……」「ぼくは、今日一輪車に乗れました。Kさんが『前を見て、バランスをとるんだよ』とアドバイスしてくれました」

……子ども達に自他の成長や良さを自覚させ、励まし合い一緒に伸びていくことの大切さに気づかせていくことを大切にしています。温かい雰囲気、安心できる場で子ども達は自分ありのままに出すことができます。

子ども達が楽しみにしていることが二つあります。「遊ぶ」ことと、好き嫌いのある子もいますが、「食べる」ことです。

「二十分間のさわやかタイム」と「昼休み」は、「子ども達の自由な時間」です。授業中にしっかりとやりますから、「自由な時間」はしっかりと保障します。生き生きと遊ぶ子ども達を見ることは、本当に楽しいことです。

「ぼくは、給食がおいしいから、いっぱいおかわりをしていきます。こんなにおいしい給食を食べられて、ぼくは嬉しいです。ゼリーがあるともっと早く食べられます」。

職員を含め二百二十名ほどの出雲崎小学校、調理員四名の自校給食。米は出雲崎産コシヒカリ百%。四月、五月はほなみが丘（学校裏の里山）で採れたシイタケとタケノコも食材に。野菜の約四分の一が地産地消。尾頭付きの出雲崎産の鯛の焼き物が出たこともありま

す。授業は、「納得」と「かかわり合い」を大切にしています。

全国学力テストや県小教研の学力テスト、NRTのプレッシャーがあります。日々の授業がそれらを焦点にすすめられる傾向にあり、過去問題や類似問題に取り組ませているところもあります。そして、ノルマを課した家庭でのドリル学習に傾斜している現実も目にします。

しかし、算数でいえば例えば少数や分数の意味、面積の特性などの本質的なことを「腑に落ちる」ように納得していくことが大事なのではないでしょうか。理

解の早い子ども時間のかかる子ども一緒に考え、話し合ったり、説明し合ったり、教え合ったりする姿は微笑ましいものです。

「学校で一生懸命勉強する、家では、だっくらするのが一番」と考えています。子ども達は、全体として爽やかな緊張感を持って授業に参加しています。私は厳しいです。

最後になりますが、「楽しく思わないことはしない」と言う凶太さも大事です。

（やまさき とおる・出雲崎小学校）

